

<所蔵映画ポスターのオープン展示>

# フランス映画ポスター名品選

## 国立映画アーカイブ デジタル・コレクションより

会場：京都国立近代美術館 1階ロビー 【観覧無料】  
2019年1月16日（水）～2月24日（日）

平素よりお世話になっております。このたび、国立映画アーカイブ(NFAJ)は京都国立近代美術館と共催で、所蔵映画ポスターをオープン展示する企画「フランス映画ポスター名品選 国立映画アーカイブ デジタル・コレクションより」を開催します。

本展は昨年度開催の「東京国立近代美術館フィルムセンター所蔵 映画ポスター名品選」(会場：行幸地下ギャラリー)、今年度開催の「映画ポスター モダン都市風景の誕生」(会場：アーツ千代田 3331)に続く、館外展示企画第三弾となります。

## 国立映画アーカイブによる関西初のオープン展示 フランス映画ポスターの精華をここに

国立映画アーカイブ(NFAJ)は、映画のフィルムを文化財として収集・保存し、積極的な上映活動を行うと共に、ポスター・スチル写真・シナリオ・プレス資料・機材・書籍といった映画資料のコレクションも有し、これらについても、活用の幅を広げ、アクセシビリティを高めるためのデジタル化を進めています。ポスターに関しては現在約59,000点という所蔵数を誇りますが、デジタル化を通じて高精度の複製を作れるようになるなど、新たな資料活用の展開が期待されます。

本展では、デジタル化した収蔵資料の活用の試みとして、フランスの映画ポスターの伝統である大判ポスター10点を選んで高精度の複製を制作し、東京にあるNFAJを出て、京都国立近代美術館にオープン展示します。これらはいずれも、戦後にフランス映画の輸入会社として設立された新外映配給株式会社に旧蔵されていたものです。この展示を通して、映画ポスターの面白さや歴史性的一端を感じ取っていただき、人々を魅了してきた映画文化の豊かさを再発見していただければ幸いです。



京都国立近代美術館

### 《新外映コレクション》について

新外映配給株式会社(1947-1963)は、第二次大戦後にフランス映画の輸入会社として設立され(当初は「フランス映画輸出入組合日本事務所」Le Syndicat d'Importation et d'Exportation des Films Français, Bureau au Japon, 略称 SEF)、ジャック・タチ、ロベール・ブレッソン、ジャン＝リュック・ゴダールといった名監督の作品を日本に初めて紹介した配給会社であり、映画にとどまらず最新のフランス文化を紹介する会報を発行するなど、当時の映画界でも異色の企業であった。外国映画輸入の環境が大きく変わる中で16年にわたる活動を終えたが、国立映画アーカイブでは、同社旧蔵の大判オリジナル・ポスターを中心とする資料を「新外映コレクション」として保存している。

□■解説トーク■□ ※申込不要、参加無料。詳細はHPをご覧ください。

日時：2019年2月9日（土）①13:00～ ②15:30～（各回30分程度）※内容は同じです

解説：岡田秀則（国立映画アーカイブ主任研究員） 場所：京都国立近代美術館 1階ロビー

### 【開催概要】

企画名：フランス映画ポスター名品選 国立映画アーカイブ デジタル・コレクションより

会場：京都国立近代美術館 1階ロビー（〒606-8344 京都府京都市左京区岡崎円勝寺町26-1）

会期：2019年1月16日（水）～2月24日（日）

休館日：毎週月曜日（ただし、2月11日〔月・祝〕は開館し、2月12日〔火〕は閉館）

開室時間：午前9時30分～午後5時（ただし金曜日、土曜日は午後8時まで開館） \* 入館は閉館の30分前まで

主催：国立映画アーカイブ、京都国立近代美術館

掲載用のお問い合わせ先：03-5777-8600（ハローダイヤル）

本企画ウェブサイト：<https://www.nfaj.go.jp/exhibition/kyoto2018/>